

サカタインクス株式会社

株主の皆様へ

第141期 中間報告書

2018年1月1日～2018年6月30日

証券コード：4633

SAKATA INX...
Visual Communication Technology

基本理念

Corporate Philosophy

● ビジネステーマ

ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造

● 存在意義

人々の暮らしを快適にする情報文化の創造を、
社会における存在意義と感じます

● あるべき姿

創造性と洗練性、そして活力のある自由闊達な社風を持ち、
かつ話題性に溢れるプログレッシブな体質を持つ企業を
めざしています

● 企業指針

顧客第一主義・積極的事業展開・チャレンジ精神の重視・
創造性の重視・アンフェアな行動の否定・企業価値観の
重視とその実行者の評価を企業指針とします

● プロミス

わたしたちに関わる人々に対し、〈さわやかさ〉をお約束します
そのために、あらゆる行動に“**We Love You**”の気持ちを
込めることを誓います

C O N T E N T S

株主の皆様へ	P.2
第141期上期の取り組み	P.3
連結業績・財務ハイライト	P.5
連結財務諸表	P.6
セグメント別概況	P.7
連結業績予想／中期経営計画2020	P.9
社会・環境活動への取り組み	P.10
株主様向け情報	P.11
会社情報	P.12
グローバルネットワーク	P.13
株式情報	P.14
株主メモ	P.15

株主の皆様へ

To Our Shareholders

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の第141期中間報告書(2018年1月1日から2018年6月30日)の業績概況につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、通商問題の動向などが懸念されるものの、米国は景気の拡大が続き、欧州も緩やかな景気の回復が続きました。アジアにおいては、中国で持ち直しの動きが続くなど、全体として回復基調が続きました。日本経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復を続けているものの、海外経済の不確実性などが懸念される状況で推移しました。

このような状況の中で、当社グループはコア事業である印刷インキ事業において、アジアを中心とした各拠点での拡販に注力するとともに、環境に配慮した安全・省エネ志向製品や顧客ニーズに応じた地域密着型製品の開発、TPM活動の深化による生産性向上などに取り組みました。また、印刷インキ全般の主要原材料価格がグループ全体で上昇していることから、継続課題として、さらなるコスト削減を推し進めるとともに、企業努力で吸収できる限界を超える部分については販売価格の改定を打ち出し、利益改善に向けて取り組みました。一方、機能性材料事業では、インクジェットインキをはじめとして、トナー、カラーフィルター用顔料分散液などの開発・拡販に取り組みました。

売上高は、円高による為替換算の影響を受けたものの、アジアおよび北米でパッケージ関連の印刷インキの拡販が進み、機能性材料も概ね好調であったことなどから、789億3千8百万円(前年同期比2.2%増加)となりました。

利益面では、印刷インキ事業において、販売数量は増加したものの、原材料高が一段と進んだことなどから、営業利益は26億8千万円(前年同期比41.2%減少)、経常利益は35億4千万円(前年同期比40.2%減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は26億9百万円(前年同期比43.6%減少)となりました。

なお、中間配当金は1株あたり15円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後も一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役
社長執行役員 森田 耕太郎

2018年9月

第141期上期の取り組み

The 141th Term First Half Activities

サカティンクスグループは、「ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造」をビジネステーマに、「人々の暮らしを快適にする情報文化の創造」を存在意義と定めており、技術力、情報力を駆使し、「競争力と独自性を有した世界三大インキメーカーになること」を目標としています。また、地球環境保全活動に積極的に取り組み、「地球にやさしく、人にやさしく、そして美しく」をテーマとし、あらゆる事業活動において環境に配慮した経営を図ります。

今後もより一層企業価値の向上を目指し、さまざまな施策を実行してまいります。

新製品の紹介とPantoneLIVE™認定パートナーに関するお知らせ

当社は、環境への取り組みを経営の重要課題として位置づけており、環境配慮型製品を数多くラインアップしてまいりました。

今回、植物由来の材料を一部に使用した「ボタニカルインキ」シリーズとして、新たに水性インキ「エコプラータ」、 「エコピーノ」を上市しました。「エコプラータ」は紙袋用途向け水性フレキソインキ、「エコピーノ」は紙器カートン用途向け水性グラビアインキとしてのラインアップとなります。

また、印刷方式や基材にとらわれず、パッケージのサプライチェーン全体で正確なカラーコミュニケーションを可能にする「PantoneLIVE™*1」（パントン社提供）の認定パートナーになりました。当社グループでは、すでに米国子会社が認定パートナーとなっておりましたが、今回あらためて親会社である当社を含めグループ会社全体が認定パートナーとなりました。

今後も総合インキメーカーとして、インキや印刷のトータルソリューションの提案を行ってまいります。



*1 PantoneLIVE™ は包装のワークフロー全体においてPANTONE™ カラーの正確なコミュニケーションを行い、デザインから店頭販売をサポートするクラウドベースのソリューションです。認定プログラムはその一部です。PANTONE®とPantoneLIVE™、その他パントンのトレードマークはPantone LLCの商標です。その他のトレードマークや商標は各所有者に帰属します。パントンはエクスラइट社の100%子会社です。© Pantone LLC, 2013. All rights reserved.

生産拠点の強化を継続

当社グループは、印刷インキの販売数量拡大などに対応するため、生産体制の整備および拡充を行っています。

2018年1月には滋賀工場で新聞・オフセットインキの設備増設を行いました。これまで取り組んできたTPM活動*1で培った知見と経験をもとに生産効率の高い設備となっています。また、この増設により、BCP*2対策を含めた西日本地区の供給体制が強化されました。

また、東京工場ではインフラなどのリニューアルを進めており、昨年完成したユーティリティ棟および厚生棟に引き続き、2018年5月にリキッドインキ技術棟が完成しました。新しい設備も導入し、これまで以上にお客様の要望などにいち早くお応えするインキの開発および改良を行ってまいります。

サカティンクスグループでは、地域に応じた戦略・展開を推進し、各拠点で将来も見据えた生産体制の充実を図ってまいります。



滋賀工場



東京工場

*1 TPMとは「Total Productive Maintenance」（全員参加の生産保全）の略称であり、日本プラントメンテナンス協会によって提唱された、生産システム効率化の極限追求（総合的効率化）をする企業体質づくりを目標とする活動です。

*2 BCPとは「Business Continuity Plan」（事業継続計画）の略称であり、災害や事故など不測の事態を想定し、事業継続の視点から対応策などをまとめたものです。

下期に 向けての 展望

コア事業である印刷インキ事業においては、成熟した日米欧の市場において、環境に配慮した高機能・高品質なインキによるシェアの拡大と、成長が期待されるアジアをはじめとした新興国では市場ニーズに合致したインキの投入による拡販を図ります。また、機能性材料事業においても、基盤技術の応用拡大のもと、グローバルに販売展開を進めます。

さらに、当社が強みとする工場力による生産技術の革新を推進し、全社を挙げて業績の向上に努めてまいります。

全米印刷インキ工業会(NAPIM)より賞を受賞

2018年4月、カリフォルニア州ソノマで開かれた第103回 NAPIM 授賞式において、米国子会社であるINX INTERNATIONAL INK CO. (以下、INX US)のジョー・チオン(Vice President, Manufacturing)が、印刷インキ業界の最高賞であるオルト賞を受賞しました。ほかにも、INX USの3名(マイケル・プライス(Vice President, Director of Offset Operations)、ジョナサン・グランキー(Vice President, Technical Director, Energy Curable ink R&D)、マーク・ヒル(Vice President, Technical Director, Liquid ink R&D)が印刷インキ・パイオニア賞を授与しました。この賞は、会社および業界において長年の貢献をした業界のリーダーに授与されるものです。

過去には、当社の代表取締役 社長執行役員兼INX USの取締役会長である森田 耕太郎が2007年度技術達成賞と2011年度印刷インキ・パイオニア賞を受賞、INX USのCEO リック・クレンディングが1997年度印刷インキ・パイオニア賞と2007年度オルト賞、President & COO ジョン・ハードリックが2013年度印刷インキ・パイオニア賞を受賞しております。



授賞式

「nano tech 2018」および 「ケミカルマテリアル JAPAN 2018」に出展

2018年2月に開催された「nano tech 2018(第17回 国際ナノテクノロジー総合展)」(於 東京ビッグサイト)において、当社はポリシロキサン材料や電気泳動型顔料分散体、カーボンナノチューブ分散体、バリア性コーティング剤などを出展しました。ポリシロキサン材料は従来の高分子材料にはない特性を有する透明材料であり、カーボンナノチューブ分散体は高漆黒性を有します。また、電気泳動型顔料分散体は電気で動く顔料分散体です。

さらに、2018年5月には「ケミカルマテリアル JAPAN 2018」(於 パシフィコ横浜)に出展し、植物由来の材料を一部に使用した「ボタニカルインキ」や、各種機能性材料を展示し、当社の高い技術力を来場者にアピールしました。

今後も、当社の基盤技術や新規材料・素材を生かした製品開発と、新たな市場の開拓に努めてまいります。



nano tech 2018

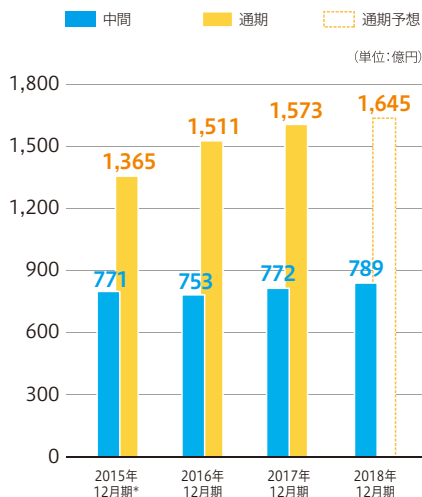


ケミカルマテリアル JAPAN 2018

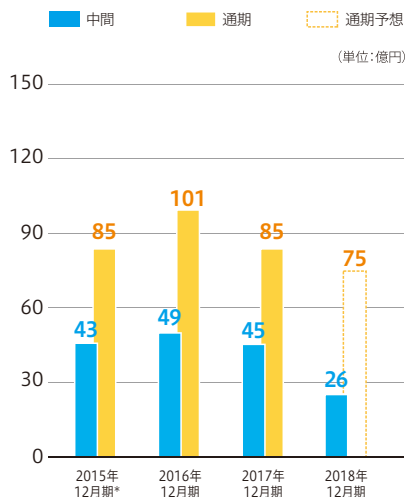
連結業績・財務ハイライト

Consolidated Financial Highlights

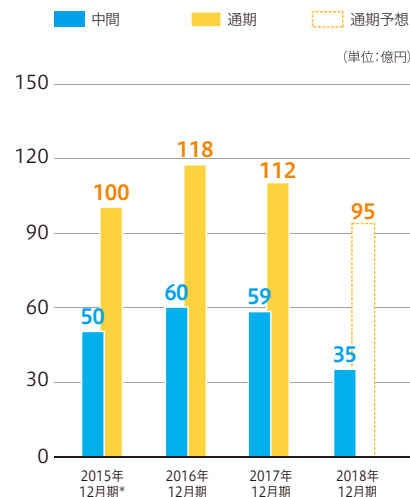
売上高



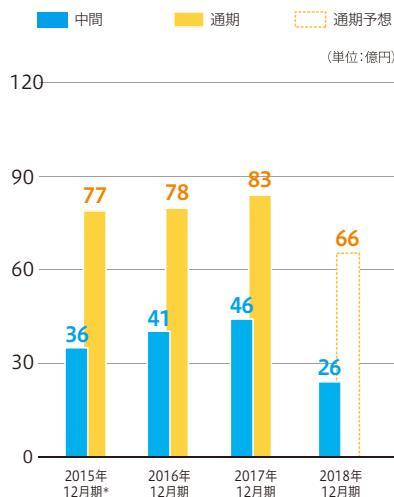
営業利益



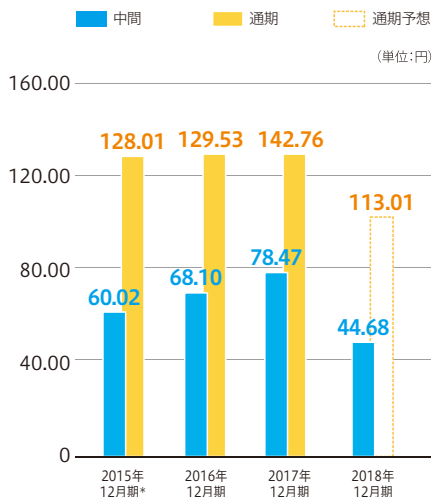
経常利益



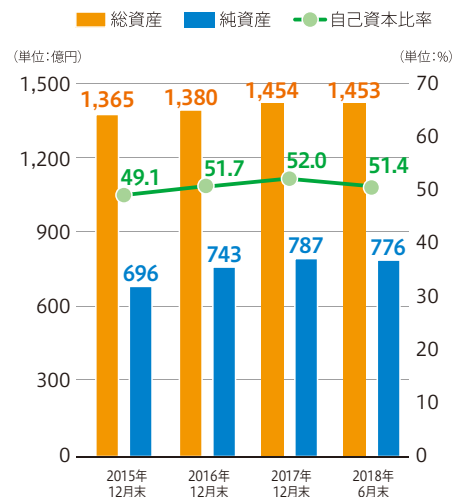
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



1株当たり四半期(当期)純利益



総資産/純資産/自己資本比率



*「2015年12月期」：インドを除く海外子会社は2015年1～12月を、国内連結会社およびインド子会社は2015年4～12月を連結対象期間としています。

連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

■ 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	
	前期末 2017年12月31日	当第2四半期 連結会計期間末 2018年6月30日
資産の部		
流動資産	76,199	75,453
固定資産	69,290	69,929
有形固定資産	37,032	38,533
無形固定資産	851	723
投資その他の資産	31,405	30,671
資産合計	145,489	145,382
負債の部		
流動負債	47,968	49,746
固定負債	18,754	18,012
負債合計	66,723	67,758
純資産の部		
株主資本	74,737	76,321
資本金	7,472	7,472
資本剰余金	5,672	5,672
利益剰余金	65,638	67,222
自己株式	△4,046	△4,046
その他の包括利益累計額	912	△1,614
その他有価証券評価差額金	4,957	4,026
繰延ヘッジ損益	2	2
為替換算調整勘定	△2,611	△4,277
退職給付に係る調整累計額	△1,434	△1,366
非支配株主持分	3,116	2,917
純資産合計	78,766	77,624
負債純資産合計	145,489	145,382

*百万円未満を切捨てて表示しています。

■ 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	
	前第2四半期 連結累計期間 2017年1月1日～ 2017年6月30日	当第2四半期 連結累計期間 2018年1月1日～ 2018年6月30日
売上高	77,272	78,938
売上原価	58,705	62,293
売上総利益	18,567	16,645
販売費及び一般管理費	14,009	13,964
営業利益	4,558	2,680
営業外収益	1,525	1,259
営業外費用	161	399
経常利益	5,923	3,540
特別利益	1,117	185
特別損失	246	56
税金等調整前四半期純利益	6,794	3,669
法人税、住民税及び事業税	1,869	822
法人税等調整額	55	118
法人税等合計	1,924	941
四半期純利益	4,869	2,728
非支配株主に帰属する四半期純利益	239	118
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,630	2,609

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	
	前第2四半期 連結累計期間 2017年1月1日～ 2017年6月30日	当第2四半期 連結累計期間 2018年1月1日～ 2018年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,728	916
投資活動によるキャッシュ・フロー	△575	△3,549
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,606	△411
現金及び現金同等物に係る換算差額	△194	△241
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,647	△3,825
現金及び現金同等物の期首残高	9,297	9,351
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,649	6,065

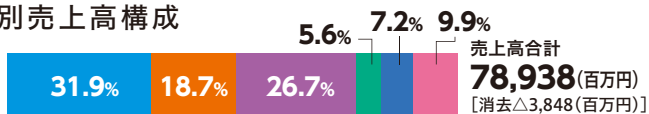
セグメント別概況

Segment Information

セグメント別売上高構成

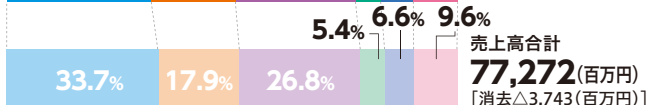
第141期(中間)

自 2018年1月 1日
至 2018年6月30日



第140期(中間)

自 2017年1月 1日
至 2017年6月30日



- 印刷インキ・機材(日本)
- 印刷インキ(アジア)
- 印刷インキ(北米)
- 印刷インキ(欧州)
- 機能性材料
- その他

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、日本における化成成品事業、ディスプレイサービス事業および色彩関連機器事業等を含んでおります。

印刷インキ・機材(日本)

売上高

264億2千2百万円

前年同期比 **3.2%減**

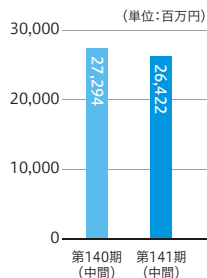
主要製商品

新聞インキ、オフセットインキ、フレキシインキ、グラビアインキ、印刷製版用材料、印刷製版関連機器

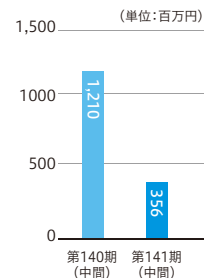
パッケージ関連では、グラビアインキは比較的堅調に推移したものの、フレキシインキは天候不順などの影響を受けて前年同期を下回りました。印刷情報関連では、需要減の影響を受けて、新聞インキ、オフセットインキともに前年同期を下回りました。以上のことから、印刷インキ全体では前年同期を下回りました。機材につきましては、印刷製版用材料、印刷製版関連機器ともに低調であったことから、前年同期を下回りました。これらの結果、売上高は264億2千2百万円(前年同期比3.2%減少)となりました。

利益面では、印刷情報関連の印刷インキおよび機材販売が低調に推移したことに加え、原材料高の影響を大きく受け、パッケージ関連においては販売価格の改定も遅れたことから、営業利益は3億5千6百万円(前年同期比70.6%減少)となりました。

売上高



営業利益



印刷インキ(アジア)

売上高

154億9千9百万円

前年同期比 **6.7%増**

(参考)

為替影響排除後 **8.7%増**

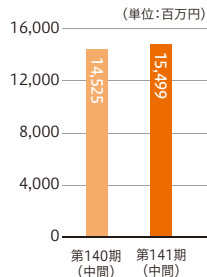
主要製商品

新聞インキ、オフセットインキ、メタルインキ、フレキシインキ、グラビアインキ

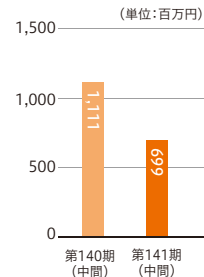
主力であるパッケージ関連のグラビアインキは、インドネシア、インド、ベトナムを中心に拡販が進みました。印刷情報関連では、オフセットインキおよび新聞インキの拡販が進みました。売上高は、円高による為替換算の影響を受けたものの、販売数量が増加したことなどから、154億9千9百万円(前年同期比6.7%増加)となりました。

利益面では、販売数量の増加が寄与したものの、販売価格の改定効果が第2四半期では一部に留まり、原材料高の影響を大きく受けたことなどから、営業利益は6億9千9百万円(前年同期比37.1%減少)となりました。

売上高



営業利益



印刷インキ(北米)

売上高

221億1千4百万円

前年同期比1.9%増

(参考)

為替影響排除後5.4%増

主要製商品

オフセットインキ、メタルインキ、フレキシインキ、グラビアインキ

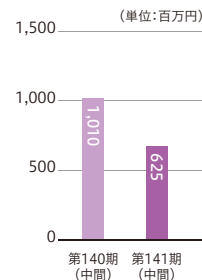
主力のパッケージ関連では、需要増加を背景として、高機能インキの拡販に向けた取組みが奏功し、フレキシインキ、グラビアインキおよびメタルインキが全般的に好調に推移しました。印刷情報関連であるオフセットインキは、UVインキが堅調であったものの、市場縮小の影響を受けて、全体としては低調に推移しました。売上高は、円高による為替換算の影響を受けたものの、販売数量が順調に増加したことなどから、221億1千4百万円(前年同期比1.9%増加)となりました。

利益面では、販売数量の増加が寄与したものの、原材料高の影響や競争激化による利益率の低下などにより、営業利益は6億2千5百万円(前年同期比38.1%減少)となりました。

売上高



営業利益



印刷インキ(欧州)

売上高

46億5千6百万円

前年同期比5.9%増

(参考)

為替影響排除後0.9%減

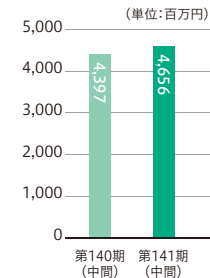
主要製商品

オフセットインキ、メタルインキ、フレキシインキ、グラビアインキ

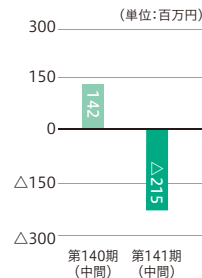
パッケージ関連を中心として拡販に取り組んだ結果、第2四半期に入り販売が上向いてきました。売上高は、現地通貨高・円安による為替換算の影響を受けたことなどから、46億5千6百万円(前年同期比5.9%増加)となりました。

利益面では、原材料高の影響や競争激化による利益率の低下などが響き、2億1千5百万円の営業損失(前年同期は1億4千2百万円の営業利益)となりました。

売上高



営業利益



機能性材料

売上高

59億8千7百万円

前年同期比11.4%増

(参考)

為替影響排除後10.2%増

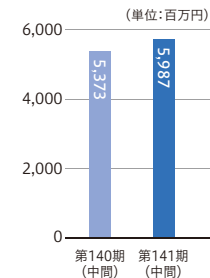
主要製商品

インクジェットインキ、トナー、カラーフィルター用顔料分散液、機能性コーティング剤

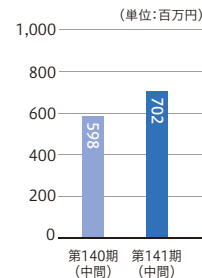
インクジェットインキおよびカラーフィルター用顔料分散液は販売が堅調に推移し、前年同期を上回りました。トナーは、第2四半期に販売を伸ばし、前年同期を上回りました。これらの結果、売上高は59億8千7百万円(前年同期比11.4%増加)となりました。

利益面では、全般的な販売数量の増加が寄与したことなどから、営業利益は7億2百万円(前年同期比17.3%増加)となりました。

売上高



営業利益



連結業績予想／中期経営計画2020

Consolidated Financial Forecast / Mid-term Business Plan 2020

■ 連結業績予想

通期の連結業績予想につきましては、2018年2月14日に公表しました通期予想から変更はありません。

当第2四半期連結累計期間の業績は、日本の印刷情報関連が低調に推移したものの、印刷インキの拡販が海外で進み、機能性材料も概ね好調であったことから実質ベースでは当初予想並みとなりましたが、円高による為替換算の影響を受けたことから、売上高は当初予想を下回りました。利益につきましては、原材料高が想定を上回り一段と進んだことなどから、機能性材料を除く各主要セグメントにおいて、営業利益が当初予想を下回り、全体においても各利益が下回りました。

通期の業績予想につきましては、印刷インキ事業において、原材料価格が高水準で推移すると見込まれるものの、海外を中心としたさらなる拡販や原材料費をはじめとしたコストの抑制に取り組むことに加え、第3四半期以降に販売価格の改定効果を織り込んだことなどから、売上高、各利益ともに、全体としては当初予想から変更はありません。なお、前提条件として、海外連結子会社の収益・費用の為替換算にあたって影響を受け易いUSドルにつきましては、第3四半期以降は1ドル当たり112.00円、通期で110.00円(年間単純平均)としております。

■ 中期経営計画2020 Innovation for the Future

当社は、2020年12月期を最終年とする「中期経営計画2020」を策定しています。その概要を株主の皆様にお知らせいたします。

当社グループは、『ビジュアル・コミュニケーション・テクノロジーの創造』をビジネステーマとした企業理念を礎として、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、CSR活動の充実、環境経営の推進を図ることにより企業体質・経営基盤を強化します。

そして、情報メディアの多様化、食の安心・安全への意識の高まりや環境規制の強化を背景とした印刷市場の様々な変化に直面する中、当社グループのネットワークを活用し、日本および世界の各市場において確固たる地位を築いていきます。

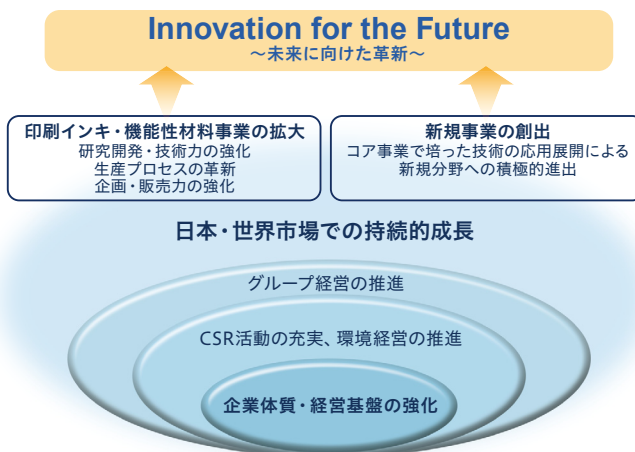
コア事業である印刷インキ事業では、環境に配慮した高機能・高品質製品のみならず、各地域の顧客ニーズに応じた製品の開発・投入により、積極的に売上を拡大します。

機能性材料事業では、デジタル印刷材料・画像表示材料・機能性コーティング剤を中心にビジネスを推進し、さらなる事業拡充を目指します。

そのために、研究開発・技術力の強化、生産プロセスの革新、企画・販売力の強化を図ります。

また、当社の持つコア事業で培った技術の応用展開により新規分野へ積極的に進出し、将来に向けた新規事業の創出に挑戦します。

これらの基本方針をもとに、当社グループの革新と挑戦を進め、ステークホルダーの信頼をより高めるとともに、グローバル企業としての持続的成長を果たすことにより、2020年12月期の連結売上高1,950億円、営業利益130億円、経常利益150億円、親会社株主に帰属する当期純利益98億円、経営指標としてROE10%以上を目標としています。また、3年累計の設備投資計画180億円に加え、戦略的投資枠100億円を設け、さらなる成長を目指します。



社会・環境活動への取り組み

Approaches to Social and Environment Activities

1 環境配慮型製品の紹介

当社は、多様なニーズにお応えし、高品質なインキの提供とともに、環境に配慮したインキの開発にも力を入れています。これまでも、大豆などの植物の油を使用した「エコピュア」シリーズをオフセットインキで展開し、商業印刷では広く普及してきましたが、一昨年からは、植物由来の材料をインキの固形分の一部に使用した「ボタニカルインキ」シリーズの展開を始めました。まずは、フィルムパッケージ向けのグラビアインキから始まり、コンビニエンスストアのパン包材などに使用されて、少しずつ採用が広がっています。また、今期には紙器向けのフレキソインキや、商業印刷向けのオフセットインキでも「ボタニカルインキ」シリーズを開発し、展開を始めました。また、これらの「ボタニカルインキ」シリーズは、一般社団法人日本有機資源協会が推進する「バイオマスマーク」にも認定されており、今後の普及が期待されます。ほかにも、近年オフセット印刷業界で急速に広まるUV印刷機向けにノンVOCタイプの高感度UVインキ「ドリームキュア」や、グラビア印刷業界での環境意識への高まりに対応したフィルム用水性グラビアインキシリーズの開発など、積極的に環境配慮型インキの展開を進めています。

当社は「低炭素社会」の実現に向けて、このような環境配慮型製品の展開を通じ、夢と彩りのある生活や情報文化に貢献し続けるよう取り組んでまいります。



バイオマス

ボタニカルインキマーク

バイオマスマーク

2 「社会・環境報告書2018」を発行しました

「社会・環境報告書2018」(2018年7月発行)には、当社グループの事業活動における社会とのコミュニケーションや環境負荷低減活動などを掲載しています。今回は、国連で採択され、社会でも大きなトレンドとなりつつある「持続可能な開発目標(SDGs)」をテーマの一つとして制作しております。SDGsは17の目標と169のターゲットで構成されており、貧困、エネルギー、気候変動などの課題に取り組むために2030年までに達成すべき目標として掲げられたものです。持続可能な社会の実現に向けて、社会面および環境面への取り組みが重要であり、サカタイクスグループにおいても、これらの目標の達成に向け、事業活動を通じて取り組んでまいります。

今回の報告書の各ページにはSDGsのロゴを入れるなど当社の取り組みとの関連をわかりやすく明示したほか、労働環境や人権など社会面での取り組みも内容を充実させています。また、連結業績や中期経営計画といった財務情報なども新たに掲載しました。



社会・環境報告書2018

「社会・環境報告書2018」の主な項目

1. 企業情報(P.1~8)
会社概要、沿革、事業紹介、連結業績、中期経営計画など
2. 社会性報告(P.9~18)
コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、製品・商品の安全と品質、人権の尊重と人材育成、ステークホルダーとの対話、社会・地域への貢献など
3. 環境報告(P.19~34)
環境マネジメント、グリーン調達・購入、環境保全活動の目標と実績、環境配慮型製品、環境負荷低減の取り組みなど



持続可能な開発目標(SDGs)のロゴ

株主様向け情報

Information for Shareholders

■ IR活動の取り組み

当社は、株主や投資家の皆様に必要な企業情報を適切に提供するため、IR活動に取り組んでいます。

機関投資家向けのIR活動として、「個別取材」の受け入れや「機関投資家訪問」に積極的に取り組んでおり、面談の回数も年々増加しています。また、機関投資家を対象とした「決算説明会」を年2回実施しており、社長より決算内容や業績予想に加え、今後の計画などを説明しています。当社ウェブサイトにて決算説明会の資料を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

(<http://www.inx.co.jp/ir/exp>)

今後も当社の知名度向上と事業内容をご理解いただき、また話題性に溢れ、成長していく企業として認知していただくべく、IR活動に取り組んでまいります。



決算説明会

■ 個人投資家向けイベントに出展

2018年3月に、パシフィコ横浜にて開催された日本取引所グループ/東京証券取引所が主催する「東証IRフェスタ」に出展しました。会場には2日間で合計約2万人の株式投資に熱心な個人投資家が来場されました。

当社ブースにも多くの方が来場され、会社概要や業績、当社の強み、株主還元などについて、ミニ説明会や個別に対応して説明し、当社のことについて理解していただきました。その他にも、定員60名の別会場において会社説明会を実施し、当社のプロフィールや成長戦略などについて説明しました。

今後も個人投資家を対象としたこのようなイベントを通じて、IR活動を継続して取り組んでまいります。



会社説明会

■ 株主還元について

配当金

当社は、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主の皆様に対する利益配当を含めた利益還元を経営の重要施策として位置づけております。2018年12月期の中間配当金は、1株当たり15円の普通配当を実施させていただくことになりました。

株主優待制度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に中長期的に当社株式を保有していただくことを目的に株主優待を実施しています。

対象となる株主様

毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

株主優待の内容

■保有株式数:100株以上 ■優待内容:QUOカード1,000円分

贈呈時期

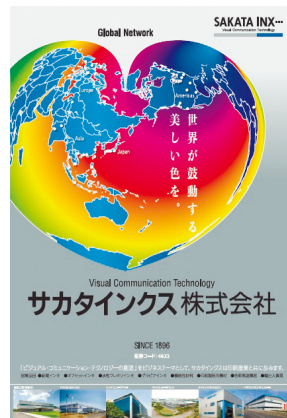
毎年、定時株主総会終了後の3月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」とともに発送を予定しております。

■ 企業広告を掲出

JR東海道新幹線の東京駅南乗り換え口構内と、新大阪駅コンコースに、当社の企業広告を掲出しています。

ダイナミックなカラーリングを施したハート形の世界地図が、視覚的印象から“心臓”を想起させ、それをキャッチコピーに活かし、「世界が鼓動する美しい色を。」としています。

新幹線にご乗車の際は、ぜひ一度ご覧下さい。



会社情報

Corporate Information

■ 会社概要

(2018年6月30日現在)

創 業	1896年(明治29年)11月1日
設 立	1920年(大正9年)9月5日
資 本	7,472百万円 (百万円未満切捨て)
本 社	(大 阪)大阪市西区江戸堀一丁目23番37号 (東 京)東京都文京区後楽一丁目4番25号(日教販ビル)
事 業 内 容	各種印刷インキ・補助剤の製造・販売 印刷用・製版用機材の販売 電子機器・情報関連機材の販売 機能性材料関連品の製造・販売 輸出入
国内営業拠点	支社(愛知・福岡) 支店(北海道・宮城・静岡・石川・岡山・広島・香川) 営業所(青森・新潟・神奈川・長野・富山・福岡・熊本)
国内生産拠点	東京工場 (千葉県野田市) 大阪工場 (兵庫県伊丹市) 滋賀工場 (滋賀県米原市) 羽生工場 (埼玉県羽生市)
海外拠点	アメリカ・カナダ・ブラジル・スペイン・イギリス・ フランス・チェコ・イタリア・インドネシア・インド・ ベトナム・中国・フィリピン・マレーシア・タイ・台湾
従業員数	連結 4,125名(単体857名)

■ ウェブサイトのご案内

ニュースリリースや会社概要、事業紹介、社会・環境活動の取り組みなどの最新の情報を掲載しています。詳しくは、ウェブサイト(<http://www.inx.co.jp/>)をご覧ください。



サカタインクス

検索

■ 役 員

(2018年6月30日現在)

役 職	氏 名
取締役	
代 表 取 締 役 員	森 田 耕 太 郎
取 常 務 執 行 役 員	中 村 正 樹
取 常 務 執 行 役 員	中 村 均
取 執 行 役 員	平 尾 耕 一
取 執 行 役 員	上 野 吉 昭
取 執 行 役 員	藤 川 和 彦
取 執 行 役 員	福 永 俊 彦
取 執 行 役 員	森 貴 弘
取 執 行 役 員	森 田 博
取締役(社外取締役)	中 川 克 己
取締役(社外取締役)	勝 木 保 美
監査役	
常 勤 監 査 役	高 橋 孝 彰
常 勤 監 査 役	手 島 泉
監 査 役 (社外監査役)	佐 藤 義 雄
監 査 役 (社外監査役)	杉 本 宏 之
執行役員	
執 行 役 員	足 立 美 知 寛
執 行 役 員	杉 本 昇
執 行 役 員	西 田 利 行
執 行 役 員	芳 村 嘉 也
執 行 役 員	宮 田 明 夫
執 行 役 員	瀧 浦 雄 一

グローバルネットワーク

Global Network

全世界の現地法人と連携をとり、高品質なインキを提供しています。

「人々の暮らしを快適にする情報文化の創造」を存在意義とするサカタインクスグループは、早くから海外進出を図り、世界の主要国に生産・販売拠点を拡大してきました。多様化・高度化する全世界の技術情報、市場情報を的確にとらえ、日本・北米を中心に、アジア・欧州の現地法人と密接に連携しながら、高品質なインキと高度な印刷関連技術を世界中に提供しています。



大阪本社



東京本社



SAKATA INX ESPAÑA, S.A.
(スペイン・バルセロナ)



PT. SAKATA INX INDONESIA
(インドネシア・ジャカルタ)



SAKATA INX VIETNAM CO., LTD.
(ベトナム・ホーチミン)



INX INTERNATIONAL INK CO.
(アメリカ・シカゴ)



INX INTERNATIONAL UK LTD.
(イギリス・マンチェスター)



SAKATA INX (INDIA) PRIVATE LTD.
(インド・ニューデリー)



MAOMING SAKATA INX CO., LTD.
(中国・広東省茂名)



INX INTERNATIONAL INK CO.
(アメリカ・オハイオ)

株式情報

Stock Information

■ 株式数および株主数

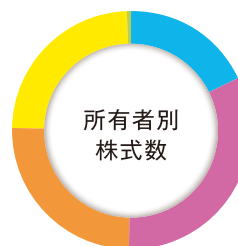
(2018年6月30日現在)

① 会社が発行する株式の総数	144,000千株
② 発行済株式の総数	62,601千株
③ 株主数	4,798名
④ 1人あたり平均持株数	13,047株
⑤ 大株主の状況	

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋インキSCホールディングス株式会社	8,428	13.46
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,681	7.47
サカティンクス株式会社	4,201	6.71
住友生命保険相互会社	3,510	5.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,404	5.43
JP MORGAN CHASE BANK 385632	2,991	4.77
JP MORGAN CHASE BANK 380684	2,081	3.32
株式会社りそな銀行	1,563	2.49
サカティンクス社員持株会	1,460	2.33
有限会社神戸物産	1,416	2.26

■ 株式の分布状況

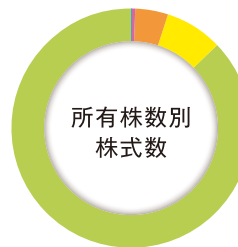
(2018年6月30日現在)



(千株) (株数百分率)

● 個人・その他	11,229	17.94%
● 金融機関	20,291	32.41%
● その他国内法人	15,687	25.06%
● 外国人	15,052	24.05%
● 証券会社	340	0.54%

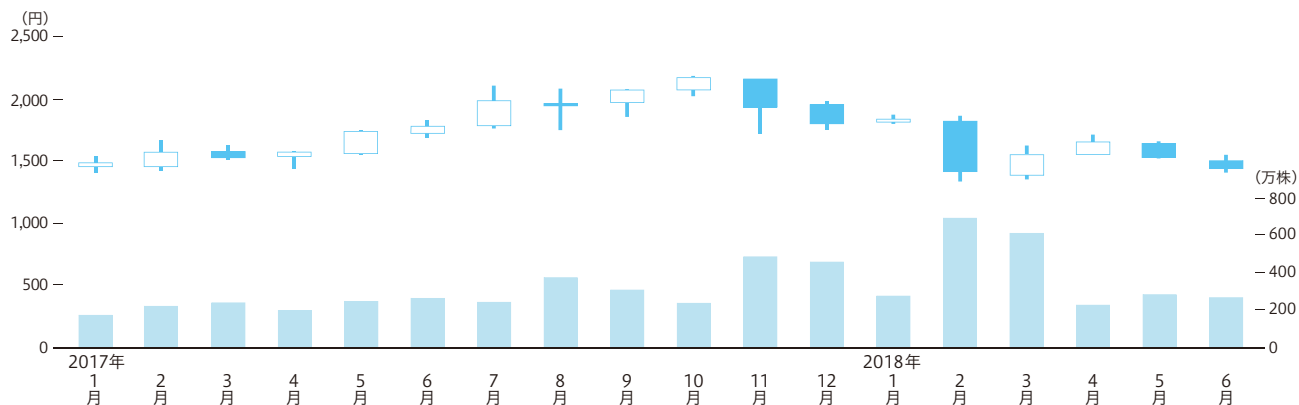
(「個人・その他」に自己名義株式を含みます)



(千株) (株数百分率)

● 百株未満	13	0.02%
● 百株以上	509	0.81%
● 千株以上	2,651	4.24%
● 一万株以上	4,823	7.71%
● 十万株以上	54,603	87.22%

■ 株価および出来高の推移



株主メモ

Shareholder Memo

事業年度 1月1日から12月31日まで
定時株主総会 3月開催
基準日 定時株主総会 12月31日
期末配当金 12月31日
中間配当金 6月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎0120-782-031
(URL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告の方法 電子公告とし、当社ウェブサイトに掲載いたします。
(公告掲載URL <http://www.inx.co.jp/>)
ただし、やむを得ない事由により電子公告による公告
ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 東京証券取引所
会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

株式に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続き
が必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社など
へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載
し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書 ○配当金に関する支払調書
○単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引
に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

- 証券口座にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様
下記のフリーダイヤルまでお問い合わせください。
三井住友信託銀行 証券代行部
☎0120-782-031

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお問い合わせ先について

株主様の口座のある証券会社にお問い合わせください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、
特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせ
ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社までお問い合わせ
ください。

サカタインクス株式会社

- 大阪本社 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-23-37
TEL 06-6447-5811
- 東京本社 〒112-0004 東京都文京区後楽1-4-25(日教販ビル)
TEL 03-5689-6601
- ウェブサイト
<http://www.inx.co.jp/>



この報告書は、FSC®認証紙を使用し、インキ中のVOC(揮発性有機化合物)成分を取り除き、植物油成分に置き換えて開発した当社製のDiatoneエコピュアSOY CL-100Xにて印刷しております。